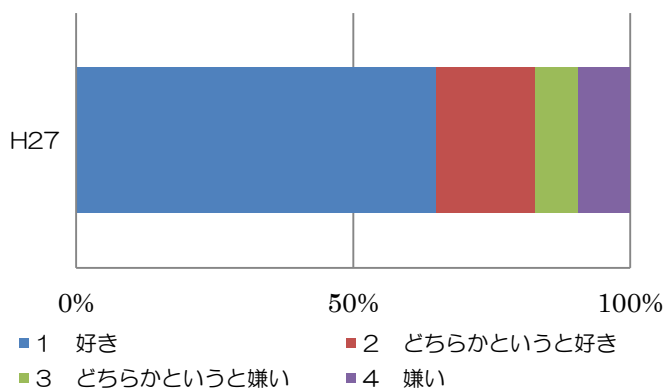


児童の 伝統や文化に関する 意識・実態調査



1年児童アンケート 調査の結果と考察

①昔話や、世界のお話などを聞いたり、読んだりするのは好きですか。



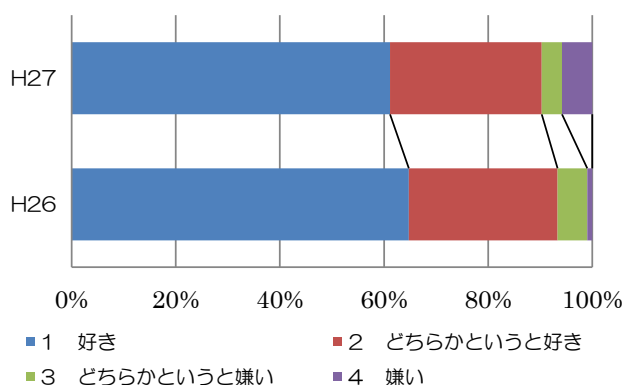
昔話や世界のお話などを聞いたり、読んだりするのは好きですかという質問に対して、好きと答える児童が、半数以上と多かった。好きな理由として、「絵や文があって読みやすい」「お話が、次はどうなるのかワクワクする」「普通では考えられないことが起きる」などと、興味をもって、昔話を読んでいる様子がわかる。

その反面、嫌いと答えた児童の理由として、「字が小さくて読みにくい」「昔話は、古い感じがいやだ」「字を読むことがいやだ」「読めない字がある」などという理由が挙げられた。字を読むことに抵抗を感じていたり、話が長く飽

きてしまったりするのではないのかと思われる。今後、さらに多くの児童が、意欲的に昔話や世界のお話を聞いたり、読んだりするために、教室環境や読み聞かせの仕方を工夫し、昔話の楽しさを実感できるようにしていきたい。

2年児童アンケート 調査の結果と考察

①昔話や世界のお話を聞いたり、読んだりするのは、好きですか。



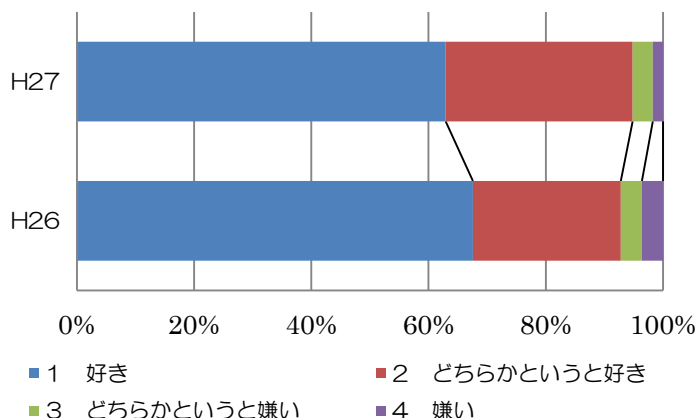
昔話や世界のお話などを読んだり聞いたりすることが好きかという質問に対して、好きと答える児童が昨年度より減少した。

「どちらかという嫌い」「嫌い」と答えた児童の理由として、「すぐ飽きる」「習っていない漢字がある」などが挙げられた。学年が上がり、授業で扱う題材が長文化してきている。そのため、読むことに飽きてしまう傾向があるのではないのかと思われる。また、習っていない漢字に関しては、既習漢字を増やしていくことで、昔話や世界のお話に対する苦手意識が薄れていくのではないかと考える。昔話を紹介する学習

を通して、児童は多くの昔話や神話を読む経験をした。その学習の中で、「昔の人の生活がわかっておもしろい」という感想をもった児童が多くいた。今後、児童が感じた面白さをより深められるような授業展開を心がけ、昔話を、想像を広げながら親しんで読もうとする児童を育成していきたい。

3年児童アンケート 調査の結果と考察

①昔話、短歌、俳句、ことわざ、遊び、音楽などの昔から伝わっている文化は好きですか。



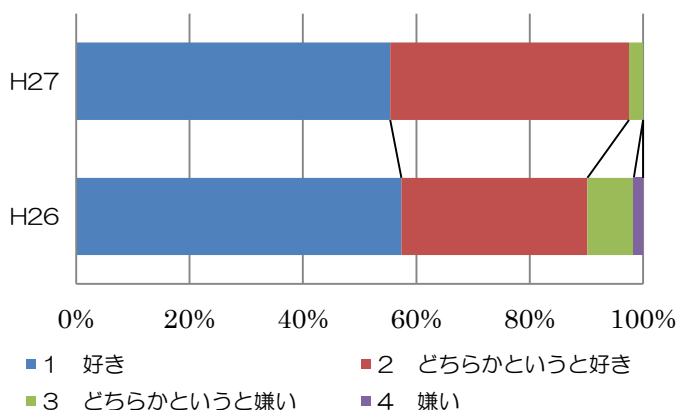
児童の伝統的な文化に対する興味関心の回答は、昨年度に比べて肯定的なものが2%増え、全体の94%を占めた。授業の学習活動や日常生活の体験を通じて、昔話や俳句、昔遊びを学び、楽しさ・面白さを実感したことを理由として答えている。さらに、「もっと知りたい」「もっとできるようになりたい」といった知的好奇心や向上心の高まりを抱く回答もあった。また、「俳句クイズ大会」を想起して、情景を浮かべたり、言葉を選んだり、俳句を作り上げたりする喜びを感じている児童もいた。

これは、前年度より、昔話の独特の語り口や言い回しの面白さを味わったり、俳句クイズの交流を通して五・七・五のリズムや言葉選びの楽しさを感じたりしてきたためと考えられる。

反面、昔話や俳句への理解の難しさを苦手の理由とする考えもあったため、伝統や文化の身近さや奥深さに気付け、楽しく活動に取り組めるように工夫したい。

4年児童アンケート 調査の結果と考察

①昔話、短歌、俳句、ことわざ、遊び、音楽などの昔から伝わっている文化は好きですか。

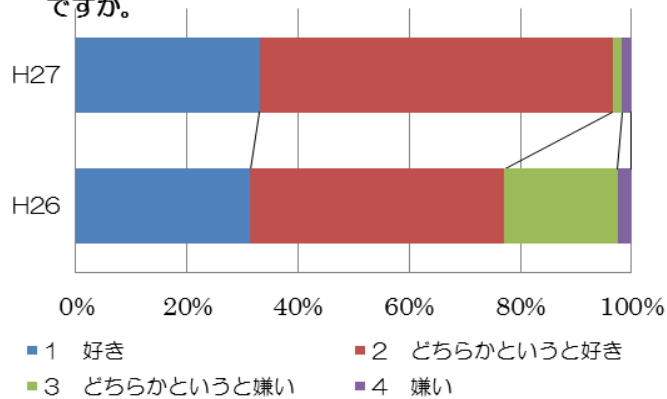


昨年度と比べ、「好き」、「どちらかという好き」と答えた児童が6%増え、97%を超えた。また、「嫌い」と答えた児童はいなかった。理由を見ると、昔話、俳句、短歌だけでなく、遊び、祭り、音楽、ことわざ、建築物、茶道など幅広い視野で伝統文化を楽しんでいる。更に、文化そのものの楽しさや面白さだけでなく、『何が楽しいのか』、『なぜ面白いのか』などの文化の価値に気付いて関心を高めている児童が半数近くいた。

また、中には、「やりたい」、「つくりたい」、「守りたい」、「大切にしたい」といった主体的な考えをもつ児童も1割ほどいた。これらは、伝統文化を学習の展開に意図的に位置付けたり、「きらめき☆ジャパネスク」等を通じて体験活動を行ったりしたことでそのよさを意識したり実感したりすることができたためと考えられる。今後は、昔の人の生活を想像させたり、知恵を発見させたりする工夫をした授業展開や体験活動を図り、伝統文化のよさを見出したり実感できるようにしたりしていきたい。

5年児童アンケート 調査の結果と考察

①昔から日本で親しまれている昔話、短歌、俳句、ことわざ、遊び、音楽、祭りなどの伝統や文化は好きですか。



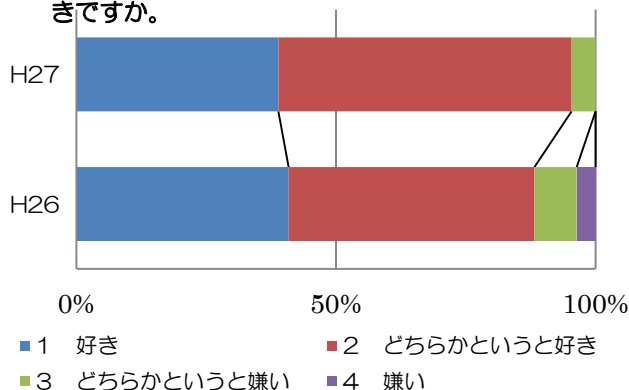
「昔から日本で親しまれている伝統や文化は好きですか」という問いに対して、H26年度と比べ、「好き」「どちらかという好き」と答えた児童の割合が20%増えた。主な理由として、「きらめき☆ジャパネスクで聴いた、太鼓や笛の音色が好き」「祭りの雰囲気楽しい」

「俳句のリズムやことわざの成り立ちに興味をもった」道徳の授業を通して、昔から受け継がれてきた文化に価値を見いだしたなどが挙げられる。他にも花火や和食、季節の行事などに日本のよさを感じている児童もいた。このことから昨年度よりも日本の伝統や文化につい

ての視点が広がっていることがうかがえる。また「龍勢ロケット」の授業後、伝統を継承する人々の思い(後世に残したい・地域を盛り上げたい・みんなを笑顔にしたい)を理解し始めているので、今後は自分たちが受け継ぐ立場としての心構えを育てていきたい。

6年児童アンケート 調査の結果と考察

①昔から日本で親しまれている昔話、短歌、俳句、ことわざ、遊び、音楽、祭りなどの伝統文化は好きですか。



昨年度の結果と比較すると、「好き」「どちらかという好き」の割合が増加した。また、今年度は、「嫌い」と回答する児童が誰もいなかった。このことから、日本の伝統や文化に対する児童の意識が高まっていることがわかる。

さらに「日本の伝統や文化のよさで好きなどころはどういうところですか。」という質問に対して、「昔から受け継がれているところ」という回答をする児童が多かった。その他にも、伝統や文化の中から日本人の心の豊かさや地域との関わりの必要性に気付く児童もいた。「きらめき☆ジャパネスク」における様々な体験活

動を通して、日本の伝統や文化を身近に感じる事ができ、多くの児童が伝統や文化を受け継ぐことの大切さを知ることができたと考えられる。しかし、体験後の感想では「すごい」「面白い」といった感想が多く、「やってみたい」のように伝統や文化の継承を自分事として考える児童は少ない。今後は、日本の伝統や文化のよさに気付くだけでなく、自分たちがそれらを守り、受け継ぐことが大切であるという気持ちを育てていく。